

奈良県代協 クリーンキャンペーン古都なら



参加したみなさん

きれいな街づくりには122名が参加

奈良県代協(服部典正会長)は11月5日、3年ぶりに「クリーンキャンペーン古都なら」を開催した。この取組は、観光都市、奈良にふさわしいゴミの落ちていないキレイな街づくりへの社会貢献活動(CSR活動)の一環として、平成13年に数人の有志で「クリーンキャンペーン明日香路」としてスタートさせた。平成14年11月に場所を現在の奈良市三条通りに移した当初は30〜50名前後の集まりであったが、回を



路上のゴミを拾う参加者

重なるごとに100名を超え、ピーク時には150名以上が集まりすつかり同代協の秋の恒例行事として根付いていった。しかし、2020年、2021年は新型コロナウイルス感染症予防のため中止。今年は3年ぶりの開催となった。当日はこれ以上にはない秋晴れの好天に恵まれ、参加者それぞれが路上のゴミを拾い集めて歩いた。同公園内では「食の祭典シェフエスタ」も開催されており、社会貢献活動後のお腹を満たす祭典を楽しむにしていた参加者も多く、秋の奈良を楽しむ光景がみられた。

顧客本位を基軸に 冷静かつ論理的に

神奈川代協

野元シニアアドバイザーが講演



野元氏

頻繁に金融庁と受発信 代理店の声は 確実に届いている

野元氏は、金融庁と日本代協との意見交換の実施方法については主に「日常的な照会応答・意見交換」「代理店モニタリングのサポート」「コンベンション等での金融庁保険課長の挨拶時

このうち日常的な照会応答・意見交換は、金融庁監督局保険課を中心にさまざまなテーマに関する、随時電話やメール、直接訪問などによって行っているとし、そのやり取りの頻度については「皆さんが想像されるよりも頻繁に、双方でメールや電話などでの受発信を行っている」と説明し

神奈川代協(三ヶ尻明広会長)は10月24日、特別セミナーを横浜市のかながわ労働プラザおよびオンラインのハイブリッド形式で開催し、日本代協前専務理事で神奈川代協シニアアドバイザーの野元敏昭氏が「金融庁・保険会社との意見交換会の内容について」をテーマに講演した。

金融庁・保険会社との意見交換会の内容について

た。また、「当局は、損害保険と代理店との間の関係に関するテーマが多岐にわたるが、これらは現状を反映したものではあるが、こうした民間どうしの課題に対しては、金融庁が代理店と保険会社の間に入って行司役や仲裁役を担うことはない。あくまでも当事者間の対話を通じて自律的な解決のサイクルを作りあげることが重要だと述べた。また、今後は顧客本位を実現するための創意工夫の事例や災害時の被災契約者対応の取組みなど、代理店の努力や存在価値を知ってもらうことも必要だと話した。

最後に野元氏は「金融庁との意見交換を行う際には、保険事業が有する公益性を踏まえながら、「顧客本位」の視点を基軸として冷静かつ論理的に、当事者としての問題指摘を続けることが重要だ」と強調した。セミナー終了後は、神奈川代協の会費改定に関する説明会を実施。同代協活性化特別委員会が昨年6月から約1年半かけてとりまとめた会費改定に関する中間報告の内容について、代協専務理事で同委員会委員長の徳山信昭氏が説明した。現在、全国47都道府県代協のうち26代協が代理店の所属募集人の数に応じた会費体系を採用しているが、神奈川代協は会員代理店の規模(募集人数)にかかわらず、会員1店あたりの年会費が2万6000円という一律方式となっている。中間報告では、これを会員代理店の負担能力に応じた会費体系に改定して代理店ごとの不公平感の是正を図るため、および、今後予想される代理店数の減少に対応しながらより充実した会員サービスを提供できるようにするために、会員代理店の募集人数に応じた会費体系へ変更することの必要性を提案した。併せて、今後も検討を進め、会員の理解を得たうえで来年5月の通常総会時に議案として上程したい考えを示した。